



フェスティバルで パワーをいただきました

都島児童館子どもの家 宮本 芳江

宮本さんからの「韓国健全育成活動事情特派員レポート」です。フェスティバルのブースやステージ発表は子どもたちの熱気や迫力がすごかったようです。

ジャニーズと大阪魂は国境をこえる!?

私は韓国語はもちろん、英語もろくに使えないため、韓国行きには不安がありました。そんな中、「私の最強の武器は、持ち前のパワーと度胸と勢いだー!」と韓国へいざ飛び立ちました。

韓国のスタッフの方々との懇親会では、ほとんどがジェスチャーでしたが、お互いに相手が表現していることを心で感じ取り合い、笑顔溢れる時間となりました。「嵐」と一言話すと「マツジュン? カッコイイ♥」、「大阪」と話すと「タコヤキ〜!」と、韓国スタッフの方々と国境を超えて心が一つになった瞬間です!(笑)ハイチーズならぬ「ハイたこ焼き!」で記念撮影をしました。

1318HappyZoneすてきなフェスティバルに参加して

早朝より「1318HappyZoneすてきなフェスティバル」に参加するため、マロニエ公園へ訪れました。フェスティバルでは、日本チームもブースの一角を出し、遊びを通した日韓交流を目標に行いました。ブースのテントへ案内をしていただき、準備をしていると、「コンニチハ」と中学生ぐらいの子どもたちが積極的に話ししてくれました。片言ではあるものの積極的に日本語を話し、「こんにちは」と答えると、とても嬉しそうな顔をする子どもたちでした。韓国の学校では、韓国語や英語に加えて日本語を学ぶようです。授業で習った言葉で会話ができると、友だち同士、手を取り合い喜んでいました。

開会式では子どもたちがステージに上がり、韓国の太鼓での力強い演奏が始まりました。一人ひとりがとてもいい表情で太鼓を打ち、その姿をステージ下からみんなが応援し、盛り上げ、全員で開会式を築いている姿が印象的でした。

日本スタッフのブースは「子どもたちに遊びと幸せを!!日本の児童館」と掲げ、駒やけん玉、おはじき、ベッタンといった伝承あそび



▲日本の遊びを紹介

を行ったり、折り紙を使った工作コーナーや、びゅんびゅんゴマ検定を行ったりと、日本の遊びを全面に押し出したブースとなりました。また、日本の児童館活動も展示し、多くの方に見ていただけるように工夫しました。



▲けん玉に挑戦!「ファイティーン!」

韓国の子どもたちは、日本の遊

びに興味深々で、「ハナ・ドウ・セー!(1、2、3)」と勢いをつけてけん玉に挑戦していました。けん玉に失敗した子に、私が唯一知っている励ます韓国語「ファイティーン!(がんばれ!)」と声を掛けると「イェー」と照れくさそうな表情で応えてくれます。子どもたちは、とても真っ直ぐで、何事も一生懸命楽しもうとしていました。「ぼくのお父さん(韓国語で話していたので、想像ですが……)」と紹介してくれたり、私のことを「みやもっちゃん」と呼んでくれたりと、日本から来た私たちを歓迎してくれているのを感じました。

ほかのブースは、HappyZoneの子どもたちが主体となって運営していました。木工作や、わたがし屋さん、手作りのダーツ、小麦粉からパンを作っているブースもありました。このフェスティバルは、利益のために行われるのではなく、無料で楽しむことができます。子どもたちがフェスティバルを作るうえでの活躍の場であり、多くの人と関わり、楽しむための場となっていました。

マロニエ公園と離れた場所では、ステージショーが行われていました。司会は1318HappyZoneのOBが行い、歌やダンス、バンドなどが披露されます。同じHappyZoneを利用する仲間が現れると会場中に歓声があがり、仲間への想いが伝わってきました。

フェスティバルの最後には、HappyZoneのオリジナルソングをみんなで歌い、心をついに成功を喜びあいました。子どもたちの持つパワーと、未来への希望に心をうたれました。

今回、韓国健全育成活動事情特派員として韓国へ行き、日本のスタッフとの交流はもちろん、韓国のスタッフや子どもたちと関わり、ともに笑い楽しみ、心と心の交流を交わし、多くのパワーをいただきました。この経験を糧に、現場を盛り上げていきたいと思えます!! ありがとうございます。

今年度の日韓交流事業は、全国児童館・児童クラブ北海道大会に韓国のスタッフ・1318HappyZoneのOBをお招きして、子どもたちの交流や職員同士の意見交換などを実施しました。